

小ギク栽培情報

令和3年産

第2号（5月号）

7～8月咲き小ギクについては、ほとんどの方が定植を終わられていることと思います。気象庁発表の長期予報（4月29日発表）では、5月後半も平年と同様に晴れの日が多い予想となっていますので、害虫の発生に注意してください。

さて、今号では、管理作業のうち、①修正摘心の実施、②整枝、③病虫害防除についてお知らせします。

1. 修正摘心の実施

- ・定植前摘心を実施された方のほ場で、摘心もれの株が散見されました。
- ・無摘心のまま成長しますと、ボリュームが乗りすぎて使いにくい切り花となってしまいます。
- ・ほ場を観察し、摘心できていない株を見つけたら、今からでも構いませんので摘心（修正摘心）を行ってください。
- ・このとき、株の先端部だけを摘み取るような摘心をしてしまうと後々に腰高な株となってしまいますので、地際から4～5節を残し、そこから上の部分をしっかりと折り取るようにしてください。

2. 整枝

- ・側枝が5本以上出てきている株は、側枝が15～20cmほどに伸びた頃、生育の揃った枝を3～4本残すよう枝の整理を行ってください。
- ・これにより、収穫した切り花の長さとボリュームを得やすくなります。

2. 病虫害防除（5月下旬～6月中旬）

アブラムシ類の発生に注意しましょう！

本年はアブラムシの発生が例年より早い傾向にあります。アブラムシの寄生により、新芽・新葉の変形や排泄物に汚れや病原菌が付くことによるすす病を発生させるだけでなく、ウイルス病を伝播させることがあります。定期的に行う殺菌剤散布の際に殺虫剤も混和して防除に努めてください。あわせて、ほ場周辺の除草も行い、害虫の増殖を防ぐようにしてください。



キクヒメヒゲナガアブラムシ



ワタアブラムシ

(写真)
アブラムシの寄生の様子

表 5月下旬～6月中旬の防除ローテーションの例 (令和3年4月30日時点での登録のもの)

時期	対象病害虫	薬剤名	使用量・倍率	回数	RACコード
(5月下旬) 成長期②	さび病	ジマンダイセン水和剤	400～600倍	8回	F:M3
	アブラムシ類 アザミウマ類	モスピラン顆粒水溶剤	2,000～4,000倍 2,000倍	5回	I:4A
(6月上旬) 成長期③	白さび病 アブラムシ類 アザミウマ類 ハモグリバエ類	ハチハチ乳剤	1,000倍	4回	I:21A F:39
(6月中旬) 成長期④	白さび病 褐斑病 黒斑病	ダコニール1000	1,000倍	6回	F:M5
	アザミウマ類 ハモグリバエ類 ヨトウムシ類 オオタバコガ	アフアーム乳剤	1,000～2,000倍 1,000倍 1,000倍 1,000倍	5回	I:6

※農薬の使用に当たっては、必ず薬剤容器ラベルの記載事項を確認し、適正に使用してください。